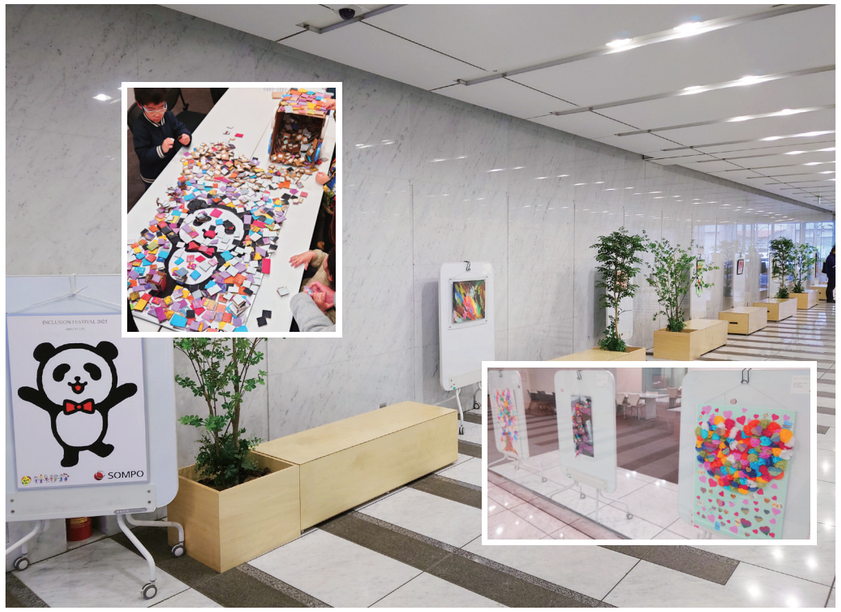


2025年2月17日～23日、「インクルージョン・フェスティバル立川2024」に、阿佐谷福祉工房、あけぼの作業所、イタール成城、ピヨピヨおうちえん両園が参加し、アート作品を出展。損保ジャパン立川ビル1階を彩りました。

いたる通信 98

ITARU CENTER

目次 contents

01 令和7年度 いたるセンター 事業計画

02 事業所通信 事業部からの情報発信

03
*阿佐谷福祉工房
*あけぼの作業所
*イタール成城
*目黒本町福祉工房
*包括ケアセンター・グループホーム
*サポートウイズ
*クローバー・マルコ
*すまいる高井戸
*ピヨピヨおうちえん（保育）
*SDGs推進室

04 News&Topic
「令和6年度 杉並区健康づくり表彰」団体の部・優秀賞を受賞。
*パン工房プクプク
*さんまるしぇ

QRコードのご案内
いたるセンターホームページ
いたるセンターインスタグラム
いたるセンターフェイスブック

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費　1口5千円（何口でも可）

郵便振り込み　00110-7-128892

（問）3392-7346 事務局 山本まで

令和7年度いたるセンター事業計画

社会福祉法人いたるセンター　理事長　谷山　勝崇

1. 令和7年度（2025年度）の目標

「福祉の基本は人」という原点から、引き続き「人を大切にする経営」の推進を基本ベースといたします。

令和6年度は、今ある経営資源の見直し、事業の整備・改善に精力的に取り組んだ1年となりました。

令和7年度は、これらの事業基盤を再強化するとともに、2030年問題で指摘される未曽有の人材不足を見据えた「選ばれる法人」を目標とし、いたるセンターの魅力づくりを再構築する重要な年度と位置づけます。

就任時に掲げた目標即ち、職員各位が仕事をする上で「やりがい」「仲間」「対価」という3つの軸の内、2つ以上を享受できる法人を目指し、さらに事業基盤を強固なものにしていきたいと考えています。

2. 事業方針

（1）人材の定着・採用・育成の取り組み強化（継続案件）

①福祉マインドの醸成と、支援技術の向上のための啓蒙活動、各種研修の実施を通じて、職員の行動基準を具体的且つ、明確化して利用者支援の質的向上を図ります。

②労働環境（労働日数、労働時間、賃金、就業規則、他）等、職員を取り巻く諸制度・仕組の見直しを通じて、引き続き適切な制度設計を進めます。

③組織力の強化（団結する事で発揮される力の拡大）

・協働・連携を積極的に推進する「オールいたる」体制の構築

・良好な人間関係の構築と助け合い精神の浸透

・コミュニケーションが充実し、信頼関係が構築されている風通しの良い法人

・法人の目標を職員全員が理解・共有している組織作りを進めます。

④年齢や性別にかかわらず、個々の実績や取り組みを評価する新たなキャリアアッププランや賃金テーブルの再構築を具体化します。

（2）事業基盤強化への取り組み（本年度重点案件）

①法人の現経営資源の洗い直しを通じて、諸課題の解決を経営・事業部門一体化してこれにあたると共に、必要に応じて事業の再構築に取り組み、事業基盤強化策を推進してまいります。

②上記を通じて、あるべき事業基盤の見極めが客観的且つ合理的に可能となった段階において、当法人にとって最適な事業方向を可視的に明確化し、事業ドメインの再検証を行い、あらためて設定することといたします。

③経営資源等の内部環境と、動向調査等の外部環境の情報収集を実施する一方で、選ばれる法人の未来像を明確化する活動を本格化し、中長期事業計画の策定に着手します。

（3）共同生活援助（グループホーム）事業の活性化と老朽化対策（継続案件）

適切な施設構成・人員配置の見直し検討と、老朽化したグループホームの移転・建替え計画を具体化し、利用者の安全安心な地域生活の充実と、経営の効率性や採算性の向上に取り組みます。

News & Topic

「令和6年度杉並区健康づくり表彰」団体の部・優秀賞を受賞。

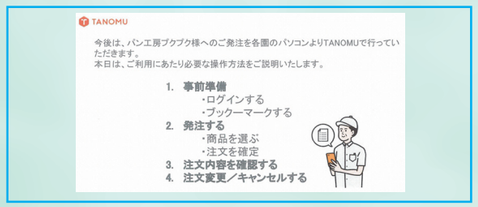
地域共生プロジェクト　プロジェクトリーダー 山本聖示

2024年度の地域共生プロジェクトでは、いたるセンターが参画・中核的な役割を果たしている阿佐谷北地区の地域貢献活動団体「あさきたシルクロード実行委員会」が、「令和6年度杉並区健康づくり表彰」で、団体の部・優秀賞を受賞。岸本聡子・杉並区長より表彰状をいただきました。また、同じくいたるセンターが参画し、全国役員となっている「インクルージョン実行委員会」では、全国8ブロックの各地域拠点で実施した「インクルージョンアート展」の公式ポスターの企画・制作・デザインを担当。2月に開催した「インクルージョンフェスティバル2025立川」では、阿佐谷福祉工房、あけぼの作業所、イタール成城、ピヨピヨおうちえん両園の作品を出展し、障害理解や子どもの権利擁護を広めることに寄与いたしました。

□パン工房プクプク　統括リーダー 池田史暢

3月より取引先の保育園様に対して給食パンの受発注システムの導入を開始しました。先陣を切って、杉並区立保育園の全園を行いました。初回でしたが特にトラブルもなく円滑に発注⇒受注⇒製造⇒納品ができました。これもひとえに杉並区保育課様ならびに株式会社タノム様のご尽力によるところが大きいです。これまでは負担がとても大きかったですが劇的に改善することができました。今後は中野区はじめ民間保育園様への導入、加えて焼き菓子の発注も可能になるよう進めてまいります。

数年後にはご利用者様主体となって一連のオペレーションができるように構築していきたいと思います。



□さんまるしぇ　店長 表尚哉

「さんまるしぇ」では、店内で流す音楽にもこだわっています。サブスク全盛の時代ですが、あえてCDを使用し、アルバム一枚を通して流すことで、作品としての魅力を伝えています。天気や時間、季節に合わせた選曲は、店の雰囲気を作るだけでなく、お客様の居心地にも大きく影響する重要な要素です。選曲は、私の目利きで、ジャンルを問わず名盤や定番はもちろん、少しマニアックな作品も取り入れています。また、障害者アートの展示も行っていますが、これらは福祉ショップとしての枠を超え、芸術作品を通じてさらに魅力をプラスしたいという想いからです。

いたる広報委員

発行責任者＝谷山　勝崇

社会福祉法人いたるセンター
〒167－0032
東京都杉並区天沼1－15－18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日／2025年4月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

もっと知りたい、お知らせしたい。いたるセンターのこと

ホームページ　インスタグラム　フェイスブック

求人情報　マイナビ2026　キャリタス就活

事業部からの情報発信・事業所通信

■阿佐谷福祉工房

施設長 大澤宏

12月19日にクリスマス会を行いました。クリスマスに因んだアート創作や飾りつけを行いました。当日はサンタクロースとの記念撮影を行い、おいしいお弁当とお菓子を頂きました。クリスマスソングに合わせて踊ったり、クリスマスカートを作ったりしながら楽しい一日を過ごしました。

1月19日に新年会を行いました。古希・喜寿などの年齢のお祝い、勤続35年などの永年勤続のお祝いを合計11名の方が、賞状とプレゼントを受け取りました。ご本人とご家族の方からご挨拶を頂き、和気あいあいとしたお祝いの会となりました。

■あけぼの作業所

施設長 山田弘子

2025年度、あけぼの作業所では「気づく力」を更に磨き、支援力の向上、業務改善、働く環境の改善に取り組みます。

日々のご利用者との関わりの中には、たくさんの気づきがあります。ですが、気づいていても忘れてしまったり、気づいていても伝えることができなかったり。

せっかくの気づきを無駄にしていることも多くあるのも事実です。「小さな気づき」が「大きな結果を生む」こともあります。

そのため、「気づき」をテーマにして職員全員で取り組む機会を設けようと考えています。

創業昭和六十三年
登録商標
あけぼの
笑門来福

■イタール成城

施設長 安倍真紀

昨年度、正面玄関のお庭をご利用者のご家族と生活介護のご利用者とでガーデニングをしてきました。

草が鬱蒼と繁っていた庭をご家族様が丁寧に掘り起こして、きれいなお庭にしていただきました。ありがとうございます。きれいに整地された庭に咲いた花に生活介護の活動の中で毎日花に水やりをしており、最近はチューリップが咲き始めています。

イタール成城の生活介護では4月から4名新しいご利用者様、生活介護・バンブル合わせて4名の新しい職員を迎えます。

春の花が咲き始めている玄関を通り、ハツラツと入って来る新しい仲間と共に新たな1年をつくっていきたいと思います。

■目黒本町福祉工房

施設長 池田佳津男

1月17日（金）にJR目黒駅にて、いたるセンターの自主生産品を販売する『いたるマルシェ』に参加致しました。あけぼの作業所、阿佐谷福祉工房、イタール成城、パン工房PukuPuku、目黒本町福祉工房が参加をし、法人本部にも協力してもらい『オールいたる』として開催致しました。JR目黒駅は目黒本町福祉工房から近いこともあり、目黒本町福祉工房が交渉窓口として関わらせて頂きました。

当日はかなり寒くどうなるものかと心配していましたが、目黒駅の駅長さんをはじめ駅の職員の方々のご協力により想定していた以上の成果を上げることが出来ました。ご利用者の工賃原資となる売上金額もさることながら、ご利用者の楽しそうな様子を見ることが出来たことや、いたるセンターのことを多くの方々に知って頂けたことがご利用者や職員の励みになったと思います。ご家族の方々にも多数お越しいただきましたことや販売に参加して頂いた職員の方々にも改めて御礼申し上げます。

■包括ケアセンター・グループホーム

マネジャー 阿久津庄司

令和7年1月1日付ですまいる高井戸より異動してまいりました。長い、いたるでの勤務実績で初めてのグループホーム事業への異動で、ワクワクとドキドキが入り混じった心境でした。
諸事情で実勤務は2月からとなりましたが、実際に同事業部に関わらせていただいて、改めて感じたことがあります。

それは、グループホームという事業は、365日24時間途切れることのない「家」であり、障害福祉サービスを提供する「事業所」でもあるという二つの「顔」を持っているということ。この二つの「顔」を、日々過不足なく維持、継続させることを使命としていることを、改めて実感する日々です。

入居者の方が、「家」と同じように［安心］［安全］［安寧］な日々を送っていただけるよう、有効な福祉サービスを計画的に提供できる「事業所」を全職員で目指していきたいと思います。

■サポートウイズ

マネジャー 林平

サポートウイズ事業部は、訪問看護・居宅介護・移動支援・相談室の4事業所が、一拠点でサービスを提供する事業部です。法人内だけでなく、地域住民の皆様にサービスを提供することで地域貢献にも努めて参ります。

さて、2月に開催した阿佐谷北地域の集いの場「あさきたシルクロード」では、補聴器をテーマにした内容の講座で、たくさんの方々にご来場頂きました。難聴とその他病気との関連性、集音器と補聴器の違いなど、はじめての内容も多くご来場頂いた皆様から大好評でした。様々なテーマで講座をご用意しております。ご興味がございましたら、ぜひお立ち寄りください。

いたる相談室では、新しい事業となる「一般相談支援事業」の開始に向けて準備を進めております。幅広い相談に対応できる相談室を目指しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

■クローバー・マルコ

統括リーダー 加藤大貴

クローバーでは、昨年12月に経年劣化により、木材が剥がれてしまう部分が出てきてしまっていたため、壁紙と床のフロアマットの改装工事を行いました。今までの内装では、木材を使用したウッド調のデザインでしたが、今回はカフェのような雰囲気を目指し、ブルックリンスタイルを意識したデザインとしました。綺麗で清潔な空間を提供し、安全で安心して頂ける運営を目指していければと思います。

■すまいる高井戸

センター長 阿久津庄司

すまいる高井戸は杉並区の委託を受けて事業を行っております。①相談支援事業②地域連携・ネットワーク事業③自立支援事業④緊急時のコーディネート事業⑤精神障害者の地域生活を支援する事業⑥その他の事業などがあり、今回はその中から、自立支援事業をご紹介します。
自立支援事業には当事者活動と自立支援活動があり、当事者活動では、参加者自身が主体的に会を運営し、仲間づくり、楽しみの場、生活力を高める場を提供しています。参加することで生活に潤いを得られるよう工夫しています。自立支援活動では、障害を問わず交流できる場、人とのかかわりを体験し学ぶ場、ご自身を振り返り見つめなおす場などを提供しています。活動を通して、社会とのつながりを得て、サービス利用につながる方も多くおられます。

すまいるの事業は多岐に渡っているため、これからも事業の内容をお伝えし、活用していただけるよう取り組んでまいります。

■ピヨピヨおうちえん

園長 黒川幸恵

「ピヨピヨおうちえん」「ピヨピヨおうちえん荻窪駅前」2歳児こっこ組共同作品【ピヨピヨの木】

3月末にピヨピヨ両園の2歳児が卒園しました。0・1・2歳という乳児期の大切な時間を保育園で過ごし、あらたな場所へと歩みを進める一人ひとりのお子様の姿に、胸いっぱいな気持ちと共に順応していく姿にとても励まされました。そして4月に入り、新入園児のお子様を迎え新しい生活がスタートいたしました。一日でも早く、ピヨピヨが安心できる場所となりますよう、楽しい時間を過ごしていきたいと思っております。また、今年度もピヨピヨ両園の交流を継続し、小規模園のアットホームな雰囲気を存分に生かしつつ、地域の中の保育園としても、子育てされている方々が気軽に立ち寄れるような運営を目指していきたいと思っております。

■SDGs推進室

統括リーダー 渡邊菜都

企業で活躍されている障害のある方々に向けて　2025年度はスキルアップに重点を置いて支援をしていきます。特にパソコンの入力速度向上、スキャン技術の習得、そして日々の清掃習慣の確立に注力します。まず、パソコン入力は日々の業務効率を大きく左右するため、入力練習用のフォームを活用し、速度と正確性を高めます。次に、スキャン技術は書類のデジタル化や情報共有に不可欠です。複合機の操作を学び、効率的なデータ管理ができるように練習をいたします。また、整理整頓された環境は集中力を高め、作業効率を向上させます。毎日の清掃を習慣化し、清潔で快適な作業スペースを維持します。これらの取り組みを通じて、2025年度は自己成長を実感できる一年にしてまいります。